

スーパーグローバル大学創成支援事業 令和6年度事後評価結果表

大学名	慶應義塾大学
整理番号	A12
構想名	「実学（サイエンス）」によって地球社会の持続可能性を高める

◇スーパーグローバル大学創成支援プログラム委員会における評価（公表用）

（総括評価） A	十分な取組状況で事業目的が達成され、今後も持続的な発展が期待できる。
（コメント） <p>事業期間全体において、自然科学の分野と、社会・人文科学系の分野における国際的に競争力ある貴学の研究教育プログラムを「長寿」、「創造」、「安全」の3つのクラスターに集結させた上で、より一層深化させることにより、国際的発信力強化に取組み、世界を舞台に活躍できる人材の育成を目指したものとなっている。</p> <p>構想実現のための体制構築においては、クロス・アポイントメント制度によって数多くの海外副指導教授の任用等を可能とし、多くの大学院生に指導を受ける機会を提供してきたことで、国際共同研究の促進と共に、世界を舞台に活躍できる次期リーダーの輩出にも繋がるのが期待できる。また、学内ガバナンスを強化するだけでなく、諮問機関として「グローバルアドバイザーカウンスル（GAC）」の設置を行い、大学運営のための助言等を行う外部体制を整える等により、大学として一貫した方針の基に、多くの成果を輩出したことは評価できる。</p> <p>その他、国際発信力を高める施策においても特筆すべき点として挙げられる。ダブルディグリープログラムの拡充については、単に件数を増加させただけでなく、いずれも世界トップ大学との連携を行うことで質の保証を担保しながら、海外協定校や海外研究連携拠点等を着実に増加させており、貴学の国際的評価の向上を積極的に図っていると言える。</p> <p>一方、本事業（タイプA）でも掲げられ、貴学においても構想時の目標とされた「世界大学ランキングトップ100」には一定の向上は見られるものの、QS World University Rankings（2025版）では188位とまだ遠い。本事業における成果指標の、各種項目の最終年度の達成状況については全体的に悪くはないものの、「多様性」や「流動性」の項目において未達のものも多くあることや、国際的な教育プログラムとして各種優れた取組みの成果が上がってはいるものの、改善の余地がまだ残されているなど課題もあることから、今後の貴学ならではの取組みを通じて更なる飛躍を期待したい。</p> <p>最後に、スーパーグローバル大学創成支援事業による補助期間は終了したが、引き続き徹底した「大学改革」と「国際化」を断行し世界的に魅力的なトップレベルの教育研究を行い、我が国社会の国際化の牽引に寄与されることに期待する。</p>	